

# 大学のあるまちづくり ーサスティナブルタウンを目指してー

## 1 目的・概要

本プロジェクトでは、京田辺校地並びに京田辺校地周辺に注目し、「大学のあるまちづくり」とは何かを学生目線で考えることにより、現状課題の解決を通してサスティナブルタウンを構想することを目的として活動を進めました。私たちは「サスティナブルタウン」を、「土地の有効活用や学生と近隣住民・その他来校者のつながりを通して、経済・社会の持続可能性の達成に専念する都市」であると考えました。そのためには、何が 필요한のかを考えるためにブレインストーミングを行い、現状における京田辺校地並びに京田辺校地周辺に関する課題を洗い出しました。さらに、課題の性質に合わせてプロジェクトメンバーを4つの班に分け、それぞれがメインとなる課題を解決するために話し合いを行いました。以下に各班の概要を示します。



- 都市開発班** 学内および学外における空き地の活用法の提案、土地区画整理事業案の作成
- アクセス班** 現状と異なるアクセス方法の提案、バス運用の見直し、アクセス向上に関する案の作成
- 設備利用班** 学内既存設備の有効利用方法の考案、ベンチ新設によるキャンパス環境の向上
- 学内飲食班** 学内における食堂の混雑解消を目的とした施策の提案

また、プロジェクトおよび提案の妥当性を確認するために各方面で調査を行いました。調査については、学内における学生を対象としたアンケートや学内の関係部署および関連企業、他大学学生へのヒヤリングを行いました。調査結果を基に定量的な評価を行い、解決すべき課題の根本的な部分についてアプローチできるようにメンバー1人1人の案をまとめ、進むべき方向性を見直しを行いました。提案については、学生の意見を単純に押し付けるだけでなく、学校の財源や社会への影響等を含めて考え、「どのような提案が受け入れられるか、全てのステークホルダーにとってメリットの生まれるものになるか」を重要視し、プロジェクトの実現性についても十分考慮した上で提案書の作成を行いました。

### Annual Schedule

- |       |    |                                                      |
|-------|----|------------------------------------------------------|
| 2023年 | 4月 | 京田辺校地・校地周辺の課題点の洗い出し                                  |
|       | 5月 | 学内飲食班、設備利用班、アクセス班、都市開発班に分かれ、各班のプロジェクト概要の作成           |
|       | 6月 | 学内飲食班：食堂混雑緩和策の作成、他大学調査、学内調査<br>設備利用班：学内アンケート調査、他大学調査 |

|       |    |                                                                                                           |
|-------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |    | アクセス班：バス利用調査、アクセス方法調査                                                                                     |
|       |    | 都市開発班：校地周辺飲食店誘致策の作成、人口統計調査、ランニングコストの算出                                                                    |
| 8月    |    | 春学期成果報告、春学期活動の振り返り                                                                                        |
| 9月    |    | 学内飲食班：キッチンカー導入に関する提案、試験的導入へ向けた詳細決定<br>設備利用班：ベンチ設置の要望、空き教室利用に関する提案<br>アクセス班：バス利用促進に向けた提案の作成、アクセス向上に関する策の試算 |
|       |    | 都市開発班：土地区画整理概要作成、駅前飲食店の誘致計画作成                                                                             |
| 12月   |    | キッチンカー試験的導入、各班提案作成                                                                                        |
| 2024年 | 1月 | 最終成果報告、キッチンカー試験的導入に関する効果測定                                                                                |
|       | 2月 | プロジェクト振り返り                                                                                                |

## 2 成果達成度

大学のあるまちづくりについて、「すべての人（地域住民・大学生・教職員・その他訪問者）が過ごしやすい環境」を目指しました。周辺環境、学内環境に注目することで4テーマを設定しました。それぞれについての活動詳細を報告します。

### 1. 都市開発班

京田辺校地の周辺環境における特徴として、「学校・最寄駅の周りに飲食店が少なく、住宅街や学生マンションが多い」、「離農と都市計画法の制限により有効活用されていない駐車場や未利用地が散見される」といったことが挙げられます。特に三山木エリアでは、特徴が顕著に表れています。活気あふれる学生街、学生と地域住民が共同して作り出す新しい形の街を構想し、不動産が有効活用された住みやすい環境を目指しました。その中で、大学近辺にて土地区画整理を行い、様々な習い事を集約させた施設を作ることで、子育て環境の充実、学生のアルバイト雇用創出、地域住民福祉の拡充を生み出す提案書を作成しました。また、飲食店を誘致するためにランニングコスト等の算出を行い、三山木エリアにおいてマッチする企業の想定を行いました。



### 2. アクセス班

京田辺校地までのアクセスの向上を目指し、「バス通学の促進」、「正門および南門までの坂道におけるエスカレーターや屋根の設置に向けた事業計画」を検討しました。京田辺校地の特徴として、アクセスにおいて坂道がつきものになっており、学生だけでなく、地域住民、来訪者にとって不便な状態です。また、興戸駅からのアクセスについては地域住民から苦情も生じています。その中で、利用率が低いバスについて、三山木駅の近鉄線・JR線とバスの運行時刻を検討し、利用しやすい時間への変更をバス運行会社に対して提案する予定です。また、バス通学の促進のために、バス回数券の周知を求める予定です。

### 3. 設備利用班

京田辺校地における学生生活の向上を目的として、「ベンチの増設」、「既存設備の有効活用」を検討しました。京田辺校地では、今出川校地と比較し、学生数に対してベンチの数が極端に少ない状態にあります。そのために、テイクアウトや弁当販売が行われていても、食べる場所に困るという状況が生じています。また、授業後の空き教室の利用ができないことにより、食事場所における制約が生

まれているだけでなく、学生が自由な発想で新たな考えを生み出す環境に制限をかけていると考えました。これらの状態の改善のために、アンケートを用いて得られた意見やデータをもとにベンチの増設と空き教室の利用について提案を行いました。

#### 4. 学内飲食班

京田辺校地の学内の食堂においては、昼食時に行列が生じ、3限に間に合わないという現状が継続的に発生しています。また、学内アンケートにおいても、食堂における不便さや食堂の狭さについて多くの意見が挙げられました。そのため、「食堂の混雑解消」を目的としてキッチンカーの導入を検討しました。キッチンカーの導入によるメリットを考えるだけでなく、デメリットについても考え、導入が可能であると判断しました。そのため、同志社大学学生生活課と協力し、12月・1月において試験的な導入を行い、その効果について評価しました。



## 3 プロジェクトを通じて

本プロジェクトを通じて、「課題解決力」「チームワーク」「論理的思考力」「プレゼンテーション能力」この4つの能力の重要性と必要性を実感しました。京田辺校地の実態を理解し、その中で何が問題で、何が根本的な課題であるかを見つけることや、仲間と協力して一つの物事に取り組む必要性、協力して得られたデータを基に外部に対して考えを主張する際に必要な能力が問われることが多々ありました。メンバーそれぞれ得られたもの、感じたものに違いはあると思いますが、各々成長できたように見受けられます。



#### 編集後記

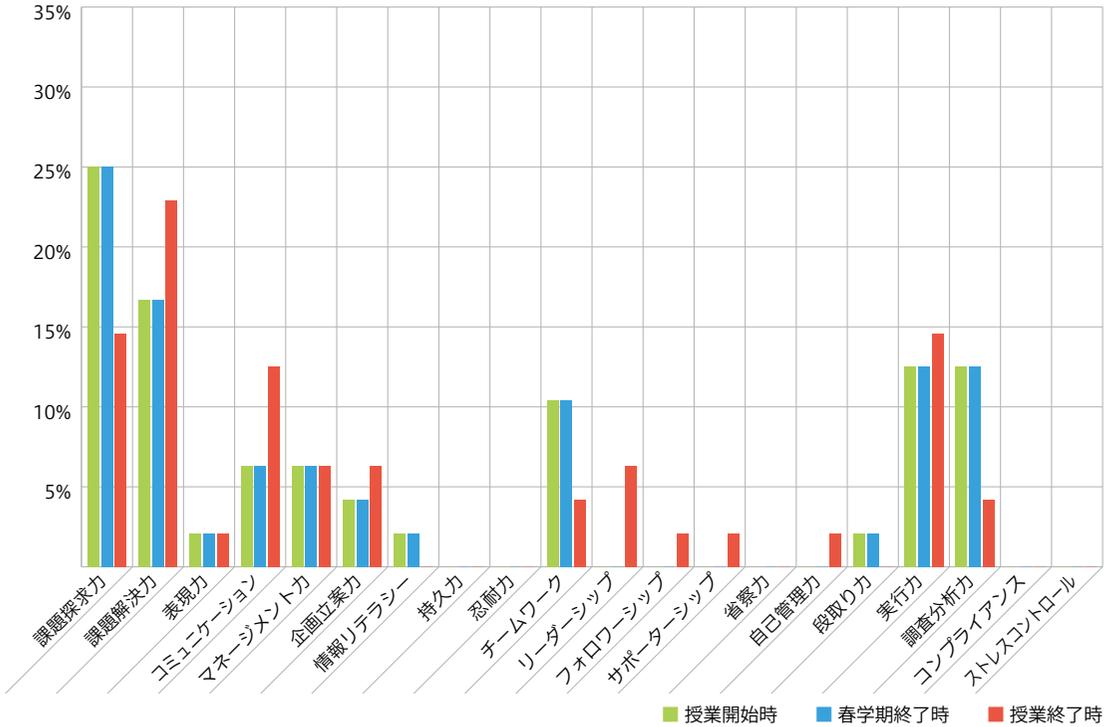
この1年を振り返ると、活動するにあたり多くの障害がありました。時に履修生同士が意見の相違で衝突したり、外部を説得するために方策を練ったりなど、普通の大学の講義では経験することのできないことに直面し、乗り越えることで一人一人の能力が向上したと思います。ステークホルダーすべてにメリットが生まれる方策を考えることや他者に考えを伝えることは非常に難しく、実際にキッチンカーが導入された際には、沢山の苦勞の末にできたものだ実感しました。最後になりますが、お忙しい中お時間をさいてご指導いただきました齋藤先生、千田先生、TAの宮脇さん、本プロジェクトに携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

#### プロジェクトメンバー

松野 泰河(経済4) 福地 智也(理工4) 亀岡 亮佐(理工4) 川崎 雅弥(理工4) 小林 昂平(理工4)  
光崎 巧(理工4) 松澤 巧貴(理工4) 老田 拓末(理工4) 岡田 美咲(理工4) 更谷 元輝(理工4)  
茶木 寛太(理工4) 日吉 太一(理工4) 石井 徹(理工4) 川窪 紀志(理工4) 中岡 翔斗(理工4)  
西川 慈功(理工4) 杉山 あすな(理工2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

